

# 第1章 堺市西区基本計画 みらいキャンパスについて

## I 策定の趣旨

西区では、市政運営の大方針である「堺市基本計画2025」のもと、住みよく魅力のあるまちを築くため、令和3年4月に「西区みらい指針」を策定し、「安全・安心のまちをみんなで創る」ことを基軸に、「まちの資源をつないで活かす」、「みんなで支え合い“地域の子”を育む」取組を進めてきました。また、西区への愛着が区民の間で浸透し醸成されるよう、西区に受け継がれてきた歴史文化や伝統産業をはじめとする魅力の発信に取り組んでいます。

堺市の出生数は昭和48(1973)年の17,053人をピークに、令和7(2025)年は4,899人に減少しています。2040年頃には団塊ジュニア世代が高齢者となり、20代前半の人口は団塊ジュニア世代の約3分の1になる見込みです。少子化と高齢化の進行により、暮らしや経済活動を支える生産年齢人口(15歳～64歳)が減少し、様々な分野で人材を確保することが困難になります。西区においても、同年齢人口の減少による医療や社会保障サービスの人材不足と費用の増大、職員や地域活動の担い手の不足が懸念される中で、地域社会の持続的な発展が求められています。

近年、デジタル技術の急速な発展に伴い、データの収集や活用、AI(人工知能)の利用が進むことにより、新たな価値が創造され、生活スタイルや働き方、学び方が多様化しています。また、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進は、生活の利便性の向上や産業面における効率化、生産性の向上など、社会に変化をもたらしています。区役所においても、住民サービスの質を高め、人材不足やコスト増大の課題を解決する手段として、ICTの活用を加速させる必要があります。

また、社会の変化に伴い、区民の価値観やニーズの多様化が進み、抱える課題も多様化・複雑化しています。そのため、社会からの孤立を防ぎ、健康や子育て、防災や防犯といった様々な分野において地域社会の中で助け合える「人と人とのつながり」が一層重要な役割として期待されます。西区においては、地域資源に恵まれた特性を活かしながら、行政と区民、区域をフィールドに活動する人々や団体など多様な主体がつながり、ともに協力しながら価値を創出し続けられる地域社会にしたいと考えます。

そこで、市民意識調査や区民アンケートの結果、各種データから西区の現在地を把握し、課題や目標を区民と共有しながら区政運営を進めるため、「堺市西区基本計画 みらいキャンパス ～ともに描く 西区の未来～」(以下「本計画」という。)を策定します。持続的に発展する「住みたい 住み続けたい 西区」をめざし、大きなキャンパスを広げ、区民とともに未来を描こうという趣旨から、呼称を「みらいキャンパス」とします。

## Ⅱ 計画期間

本計画の計画期間は、令和8(2026)年度から令和12(2030)年度までの5年間とします。

## Ⅲ 位置づけ

本計画は、区政推進の拠り所として策定した西区独自の計画であり、市政運営の大方針として本市が取り組むべき方向性を示した「堺市基本計画2030」の下位に位置づくものです。

また、市政各分野の個別計画を補完し、「区役所と本庁のあり方基本方針」を踏まえて策定するものです。

(イメージ)

